奥精雅彦 (総務省統計研究研修所教官)

原敬 はら たかし  $(1856 \sim 1921)$ 

#### MENU

- 1 フランスの 1886 年人ロセンサスを目の当たりにした 原敬(外交官時代)
- 2 国勢調査準備委員会と原敬(内務大臣時代)
- 3 首相時代の原敬日記と国勢調査



パリ在勤時代



首相時代

父は盛岡藩士。苦学の末、明治 9 年(1876 年)司法省法 学校に 入学。同 12 年に退学後、『郵便報知新聞』、『大東 日報』の記者 をつとめる。外務省入省を契機に官界へ転 進。外務次官などを 歴任。同 30 年 9 月、官界から引 退するが、伊藤博文を中心に 結成された立憲政友会に参 加。同 35 年衆議院議員に初当選。 以後連続当選 8 回。 政友会の実力者として西園寺公望総裁を 補佐し、桂園内 閣時代の立役者となる。大正 3 年(1914年)第 3 代立憲 政友会総裁。同 7 年首相となり、初の本格的政党内閣 を 組織し、政党政治を推進するが、同 10 年東京駅で暗殺さ

【参考資料】、【写真】: 国立国会図書館HP「近代日本人 の肖像」

# 1 フランスの 1886 年人口センサスを目の当た りにした原敬(外交官時代)

(本稿は総務省統計局HP「統計図書館ミニトピックスNo.26」 を基に作成)

## 1 フランスの 1886 年人口センサスの実施状況を調査

東京統計協会は、明治19年(1886年)3月に人口調査の 草案(明治4年からフランスに留学し、統計学や統計実務な どを学んだ小野弥一の発議により作成)を内閣統計局長に提 出しました。その年、東京統計協会会長・渡辺洪基(注:東 京府知事、帝国大学総長などを歴任)の依頼により、原敬(当 時、パリのフランス公使館書記官として勤務)は、明治19年 5月に実施されたフランスの人口センサスの実施状況を詳 細に調査しました。原敬は、その結果と所見を渡辺洪基あて 書簡(【別記】参照)により報告しています。東京統計協会は、 原敬の報告も踏まえ、その後の国勢調査の創始に向けた要請 行動を展開したものと考えられます。

## 2 原敬がフランスの実施状況を調査したことの意味

島村史郎「日本統計史群像」(第13章「原敬と国勢院」) において、「後年首相となる原敬が30歳の若い時、フランス の人口センサスについて調査・研究したことは我が国の統計 発展に重要な意味を持つことになる。」と指摘しています。 確かに、原敬首相の統計観に影響を与えたと考えられます。

・原敬日記におけるフランス人口センサス実施関係記事1

明治 19 年 5 月 31 日

佛国人口調査あり 二十九日夜より三十日に越したる現 員を各戸毎人に就き年齢 職業等一切を記載せしむ

【別記】フランスの 1886 年人口センサスの実施状況を報告 する書簡のポイント(原敬発、東京統計協会会長・渡辺洪基あて) 明治19年6月18日付け書簡⇒【資料1】

(実施状況)

- ◆調査の計画上の日程を紹介した上、調査票の回収が計 画のとおりにならない事情があり、すべてを調査するに は相当の日数を要すると見込まれること。
- ◆フランスの人口調査は5年ごとだが、人々の動きがあ るので短い間隔がいいと思う。ただ、多くの経費がかかる ので、調査の周期については熟考を要すること。 (添付資料)
- 調査票の様式(様式第1号(裏面に記入説明あり)~第3号様式)
- ・調査の実施に係る新聞記事の切抜き

## 明治20年1月14日付け書簡⇒【資料2】

◆調査結果が官報で公布され、その要点が新聞に掲載さ れたこと。

・官報で公布された調査結果に係る新聞記事の切抜き

1【出典】:福村出版「原敬日記 第1巻 青年時代篇|、【写真】(原敬記念館提供):「統計図書館ミニトピックスNo.26|参照

【資料1】明治19年6月18日付け書簡(原敬発、東京統計協会会長・渡辺洪基あて)<sup>2</sup>

(筆者が原文のカタカナをひらがな表記にし、旧字体はできるだけ新字体にし、句読点等を付しました。)

揮啓 仏国戸口調査は御承知の通、毎五か年に一回にて全国一度に施行する例規に有之。今年は丁度前回の調査より五か年目に付、去五月二十九日夜より三十日に越したる現員ヲ別紙三葉之雛形に従い、夫々記載為差出候右施行に付ては郡区役所より前以て毎戸に右の雛形を配布し、六月一日に取集め候得共、目下尚ほ調査済に至らず候。其故は毎戸より取集めたる分を調査する時日と又例規之通差出さすか又は差出したるも例規に違うと申す如き種々の事情より追々遷延相成候に付、全く調査済に至るには随分日数を要することと存候。

本邦にても戸口調査の説有之の趣相見え候。殊に近着 の集誌 (統計集誌) には人員調査の実施方法を統計局長へ差し 出されたる趣、御記載有之、至極御同感の至候。然るに 仏国の如く五か年に一回全国の調査を始むるか又は毎年 調査する方、宜しや、其辺は、随分其局に当る人々には御 議論も可有之。又、御熟考を要する事柄と存候。小生の 見込にては毎年調査する方可然哉に被 考 候。其理由 は五か年に一回とか六か年に一回とか申す事は簡易の様 に一応被考候へ共、元来、戸口調査など申す事業は生 活ある人間に向て施すものに付、一定不動の木石を調査 する如くには参らず、如何様に注意を用ゆるも種々の事 情より遺漏の少なからざることは欧州数年の経験ある 国々にても、尚ほ免がれ難き所と承り候へば、戸口調査は 可成度々調査する方精密なる結果を得るに近かるべく、 左すれば五か年よりは四か年よりは三か年と年限の短き 程は調査の行届き 可申こと勿論なれば責めて毎年一回 くらいは調査の方、可然、尚ほ、能うことなれば年に二 三回にても之有度ものと存候。

然るに、戸口調査は、御承知の通、方法の如何によりて 非常の費用を要するものに付、此点には充分注意之有度、 加ふるに本邦今日の如き不景気最中に巨額の費用を出す ことは望ましきことに無、之に付、調査の為に要する人 員、用紙などに充分注意を加えて費用節減法を立てられ 度ものと存候。假へば、東京府下にて非番の巡査は戸ごと に帳面を備えて人員の調査をなせども之が為めに多分の入費ありとの苦情も聞かざる様なるが如し。此巡査の代りに人を雇いたらんには恰も先年地租改正時分の如く或る部分の人々は、之が為めに一種の職業を得るかは知らざれども費用を負担する者に取りては迷惑至極なるべき筈に付呉々も費用の点には注意あるべき事柄と存候。

右御評議の上、集誌 (統計集誌) に御掲載被成下、会員諸君 の御参考に供するを得ば本懐の至に存候。仏国戸口調査 雛形三葉の外に本月七日刊行の「ル・タン」(フランスの日刊政治

新聞切抜相添 候次第は巴里府下戸口調査の景況一班を御報知致 度までに過ぎず候。尚ほ此調査の結果並費用等のことは聞知次第追々御報知可致存候。

明治十九年六月十八日

在巴里 原 敬 東京統計協会会長 渡辺洪基 殿

(添付資料は省略)

【資料2】明治20年1月14日付け書簡(原敬発、東京統計協会会長・渡辺洪基あて)3

(筆者が原文のカタカナをひらがな表記にし、旧字体はできるだけ新字体にし、句読点等を付しました。)

揮啓 仏国人口調査の義に付昨年六月十八日付を以て報告致候処、早速、集誌第六拾九号に御掲載被成下、且つ、 懇篤なる貴簡を以て会員諸君の御参考に可相成旨御来示有、之実に望外の栄と存 候。就いては、右調査の結果を御報知致候は、自然、小生之義務と存候に付き、即ち左に申述候。

当国内閣議長「ゴブレー」氏より大統領へ差出候人口調査の報告書は本月六日の仏国官報を以て公布相成候。此報告書は詳細に人口の移動を記載有之候得共、頗る長文に付要領を摘記して御報知可存候処、幸に「ル・タン」(フランスの日刊政治新聞)新聞記者は、去七日の紙上に要領を登載致候。「ル・タン」新聞は、御承知の通有名なる新聞に付、或は本邦に於て官報又は他の新聞に訳載相成るもはからいがたしとぞんじそうちえども難計存候得共、先般、同新聞、切抜差進たる縁故もあり、又尤も精確に要領を摘載せし様、被認候にとりあえず、不取敢切抜差進候。

此切抜第一号は官報所載の要点にして、第二号は右に

<sup>2【</sup>参考資料】: 統計集誌第60号 明治19年 (1886年) 8月 国立国会図書館デジタルコレクション (※国立国会図書館限定) で閲覧可能 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572927/4

<sup>3【</sup>参考資料】: 統計集誌第67号 明治20年 (1887年) 3月 国立国会図書館デジタルコレクション (※国立国会図書館限定) で閲覧可能 https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1572933/5

関する評説に付是にて充分に調査の結果を御承知可相成存候。左すれば小生は別に贅陳を要せず、只だ「ゴブレー」氏報告中の数語を訳載するを以て足れりと存候。即ち、

人民の数は租税及び行政の種々の法律を実施すべき基礎となるべし。

故に財政及び経済の点に於て毎五か年に施行する調査 は、直接に立法上に関係を有せり。

明治二十年一月十四日

在巴里 原 敬

東京統計協会会長 渡辺洪基 殿

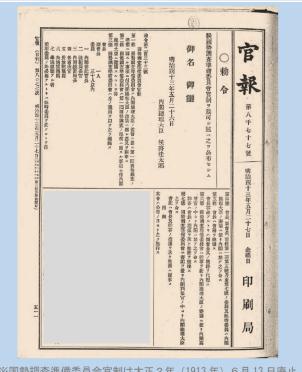
(添付資料は省略)

# 2 国勢調査準備委員会と原敬(内務大臣時代)

国勢調査準備委員会(明治43年1910年6月~大正2年1913年6月)は、国勢調査準備委員会官制(明治43年1910年勅令第233号) [10年1]に基づき、第1回国勢調査の準備に関する事項につき内閣総理大臣の諮問に応じ意見を具申する委員会。同委員会の会長は、初代会長が平田東助、2代会長と4代会長が原敬、第3代会長が大浦兼武と、いずれも内務大臣が充てられています [10年2]。原敬は、辞令上 [10年6月)~第5回(明治43年10月)の議事録が国立公文書館デジタルアーカイブで公開されていますが、その後の開催状況は不明です(休眠の可能性も・・・)。ちなみに、内務大臣時代の原敬日記第3巻で国勢調査準備委員会会長に原が任免された日付け前後の記事で関連のありそうなものは見たりませんでした。

政府は、日露戦争の影響で延期されていた第1回国勢調査について大正4年(1915年)に実施することを目指し、明治43年(1910年)に国勢調査準備委員会を設け、同年平田会長の答申がなされたものの、それ以上、進展せず、同委員会は大正2年6月に廃止となり、国勢調査の実現に至りませんでした(政局の影響も・・・「【季44】)。原敬が首相就任後の大正9年にようやく第1回国勢調査が実施される運びとなりました。

【参考1】国勢調査準備委員会官制



※国勢調査準備委員会官制は大正2年(1913年)6月13日廃止 【画像】国立国会図書館デジタルコレクション

【参考2】歴代内務大臣(抜粋)

_ K.		正门初次任(	1以十十
代	内務大臣	内閣	就任日
21	原敬	第1次西園寺内閣	明治39年(1906年)1月7日
22	平田東助	第2次桂内閣	明治41年(1908年)7月14日
23	原敬	第2次西園寺内閣	明治44年(1911年)8月30日
24	大浦兼武	第3次桂内閣	大正元年(1912年)12月21日
25		第1次山本内閣	大正2年(1913年)2月20日
26	大隈重信	第2次大隈内閣	大正3年(1914年)4月16日

【参考3】国勢調査準備委員会会長の任免に係る辞令



間内や ※関内 と及 質服 勢用 止の 查地 豫定 國 施 多年の 0 少 五 姿とない 行 威 0 月 2 0 調 方 12 2 修 5 Œ 懸 あ 堪 議求 象で 務 3 を 2 Ł とを 大 は 取會し ^ 正 \* 2 會 あ 次 方應と 得だ。 規 九 設れ 2 T 會は 0 は ん 程(訓 H \* 奪 72 遂 桂 とし 同 题 23 田 首 内 合)國 月 呼 行 閣 會 4 相 曾 23 画 0 T は L 長 H L 勢 先づ T な 查 後 İ 調 \* 國 0 廢 勢 大に 查 以 勢 は 題 止 答 調 員 調 申 原 は 4 勢 査 4 內 n 心 n 調 查 內 寺 3 法 得(訓 地、臺灣、樺太、關東州、青島南 0 施 閣 內 2 n 72 7 私 行 內 72 布 備に 令)等 閣 0 備 12 介(勅 は が柱 あ 31 同 委 3 署 努め z 仓)國 即 於 會 員 名 τ 0 閣 5 會 幹事 且 決 2 办言 Ł 勢 原 72 四 0 L 早 設 盛 調 內 費 h 12 查 閣 經 T 0 け 任 12 0 登 あ 倒 閣 上、第 は 12 施 \* 2 n ép 宜 て 先づ 令 行 洋、委 帝 12 あ 細 た 則(閣 12 亚 か 0 ٤ 明 そして を審議し 任 勢 議 6 で自然中 悲 貨に 會 勢 四 カ 調 查 12 + 200 勢

# 【所見等】

# ・「第三次の桂内閣は・・・」

国勢調査二関スル法律(明治35年1902年法律第49号)は、第一次桂内閣(明治34年6月2日~明治39年1月7日)の時代において制定・公布されたところ。ここでいう「第三次の桂内閣」は「三次にわたる桂内閣」の趣旨と考えられます。

## ・「平田会長より答申」

「統計集誌」第 359 号によれば、明治 43 年 6 月 14 日の内閣総理大臣の諮詢された勅令案や閣令案に係る議案について、同年 11 月 5 日に国勢調査準備委員会の決議を内閣総理大臣に報告したとされています。

# ・「桂内閣が早く倒れたので自然中止の姿となり」

ここでいう「桂内閣」は、いわゆる平田会長の答申の時期との関係から、第二次桂内閣(明治 41 年 7 月 14 日~明治 44 年 8 月 30 日)とみられます。また、「自然中止の姿」とあるのは、その後も国勢調査準備委員会の会長は任命されていたことから同会議は大正 2 年 1913 年 6 月に廃止されるまで「休眠状態」になったものと考えられます。

なお、仮に第二次桂内閣の総辞職がなかったとしても 第1次世界大戦の関係で大正4年に第1回国勢調査を実 施することは、結果として微妙であったように思います。

# 3 首相時代の原敬日記と国勢調査

(本稿は総務省統計局HP「統計図書館ミニトピックスNo.20」を基に作成)

#### 1 原敬と第1回国勢調査

原敬と第1回国勢調査については、統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」(統計年表)に掲載されていましたので、紹介します。5

原敬は、明治・大正期における我が国の代表的な政党政治家であり、大正 7 年(1918 年)に総理 大臣に就任し、「平民宰相」と称されました。

原は、大隈と同様、統計に関心を持ち、総理大臣として 我が国の統計の発展に尽力した数少ない 人の一人です。 具体的には、大正 9 年 5 月、総理大臣として自らの手 で内閣統計局と軍需局を合併 して内閣に国勢院を創設 し、統計発展の基盤を整備するとともに、この年の 10 月、我が国で最初 の国勢調査を実施しました。

また、時代が遡りますが、…パリのフランス公使館書記官として勤務していた明治 19 年 (1886 年)、東京統計協会会長の渡辺洪基 (注:東京府知事、東京帝国大学総長などを歴任)からの依頼に 基づき、この年に実施されたフランスの人口センサスの実施状況を詳細に調査しています。さらに 遡って明治 14 年、原はこの渡辺に後の統計局長となる花房直三郎を加えた 3 人で約半年間、関東・東北・北海道の諸国巡遊の旅に出かけています。このように、統計に縁が深かった原ですが、我が 国の統計の発展にとって残念なことに、第 1 回国勢調査の結果を見ずして調査実施の翌年に暗殺されてしまいました。

#### 【参考】原敬と渡辺洪基の出会い

原敬と渡辺洪基の盟友関係は、明治 12 年(1879 年)に「郵便報知新聞社」に入社して記者となった原敬が取材活動として、自由民権運動に反対する伊藤博文の指示で『集会条例』の作成に携わる役人の渡辺洪基に接近し、渡辺洪基の話を聞くうちに意気投合したことにより始まります。その後、原敬は、明治 13 年に渡辺洪基が参加する東京統計協会の会員となりました。原は、東京統計協会では渡辺洪基らとともに、前述のとおり、諸国巡遊(明治 14 年)も行い、地方の実情を視察して郵便報知新聞に記事を掲載しました。(【参考資料】: 総務省統計局 HP「統計の黎明とその歴史」(統計の偉人たち〉原敬))

【一口メモ】渡邊洪基は原敬と前妻貞子の仲人だそうです。

# 2 原敬日記における国勢調査実施関係記事

大正9年(1920年)の第1回国勢調査は、前述のとおり原 敬内閣の下で実施されました。原敬は、内閣総理大臣として、 国勢調査について、その意義を理解しつつ、関係者への配慮 をしていることが、原敬日記の次の記事から読み取ることが できます。

<sup>4</sup> 横山雅男「統計学」: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1280182/139 (国立国会図書館デジタルコレクション)

<sup>5【</sup>参考資料】: 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業 (WARP) により保存された 2018 年6月1日現 在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」(統計年表)

# ・原敬日記における国勢調査実施関係記事6

#### 大正9年8月29日

物産陳列館に於いて官民合同の歓迎会に招待せられたり。答禮のため演説して地方民の自覺を促す爲め世上の形勢及び交通機關の利用等を述べたり。夕刻より官民有志より秀清閣に招待せられ晩餐会に出席し、市長の歓迎の辭に対し、糧食充實に付開墾奨励及び財政經濟調査会に於ける目下研究中なる事、国勢調査の効果は實行の上に非ざれば判明せず、全く最初の試みに属せり、交通機關の發達は喜ぶべきも地方繁昌して地方税は繁昌せざる様の結果を招かざる事に注意せよと地方の爲めに苦言をなしたり。

# 大正9年9月30日

国勢調査今夜實行なるが不幸にして大雨、困難事も多からんと思ふ。

【別記】(大正9年9月30日の天候)

## 大正9年12月15日

国勢調査終了につき、評議員を午餐に招き慰労をなしたり。始めての試としてはまず無難に行われたるなり。

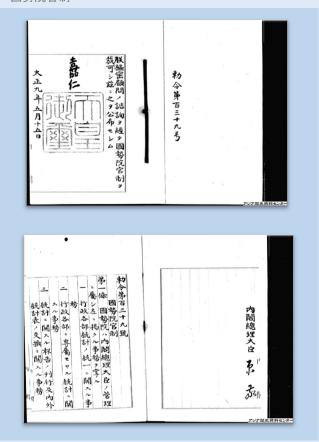
# 3 原敬の統計整備に向けた取組

原敬は、第1回国勢調査の実施に際し国勢院を創設すると ともに、同調査の実施の直後に中央統計委員会を設置するな ど、統計整備に向けた取組を実施しました。

・原敬日記における国勢院創設関係記事

大正8年	閣議を開く、横田より・・・国勢院創立・・・の草案を
(1919年)	説明し多少の修正意見の外大体其趣旨に決定し
6月20日	たり・・・。
10月25日	・・・枢密院委員会に付託中の国勢院創立の案に付
	委員等真意を解せず軍需局に反対の意味に於い
	て苦情多きに付顧問官に注意を望むと云いたる
	に山縣諒承せり、・・・
10月27日	又田中の内話に国勢院官制審査に関し伊東に依
	頼に本日只今往き来れり・・・、伊東は内談を聞き
	たる後直に其子が陸軍に居るに因り其立身上に
	付交換的に依頼を持出したるに付之を諾したり、
	是にて国勢院官制も何とかならんと云ふ、共に一
	笑したり
大正9年	西園寺昨日上京に付往訪・・・国勢院には山縣伊三
5月11日	郎の考えなりしも・・・国勢院には小川平吉を登用
	することを内談したり、…
5月14日	…小川平吉に国勢院総裁たるべき旨を告げ、…
	小川少々勿體らしき事を云ひたるも承諾したり。
5月15日	午後二時・・・小川の親任式行はせらる。終て・・・皇
	后陛下に拝謁したり、皇后陛下より選挙の結果其
	他に付御話之ありたり、余大體を奏上せり。

# 国勢院官制<sup>7</sup>



# • 中央統計委員会官制8



6【出典】: 福村出版「原敬日記 第5巻 首相時代」

7【画像】:国立公文書館デジタルアーカイブ(御署名原本「国勢院官制」)

8【画像】: 国立公文書館デジタルアーカイブ (御署名原本「中央統計委員会官制」)

・大正 10 年 4 月 11 日の第 1 回中央統計委員会における原敬首相のあいさつの要旨

(筆者が原文のカタカナをひらがな表記にし、ルビ等を付しました。)

惟 $^{i * i}$  ふに社会の進歩に伴い、其の組織は益々複雑となると之に対する官公の施設も $^{i * i}$  従て詳密を要する訳であります。  $^{i * i * j}$  して適切穏健なる施設 $^{i * i * j}$  を為すには申す迄もなく、予め正確なる調査に依て事物の実際の真相を明にすることが最も必要であります。殊に列国駢進 $^{i * i * j}$  の大勢に後おくれざる為には、先般施行せられたる国勢調査の外、更に今後諸君の御意見を伺い、統計に関し新に施設すべきこと又改善を施すべきことも多々あると信じます。実際の事実に基かざる施設経営は国家社会に対し益する所なきのみならず反て $^{i * i * j}$  でまるがよって害を残すことがありますから所謂其の本を正すことが最も重要であります。

#### 4 原敬の統計観

100年前の国家的大事業である第1回国勢調査は、統計を 重視していた原敬内閣の時代において 成し遂げることがで きたといえます。 原敬日記における国勢調査に関する短い くだりと前掲の第1回中央統計委員会における原敬首相の あいさつの要旨をあわせて読むと、調査の効果は実行しなけ れば判明せず、そのためには、調査を実行する上で困難もあ るが各プロセスで定められた方法で正確に調査を実行する 必要があるということを示唆しているように思います。この ことは、現行統計法の保護法益である政府統計の信頼確保の ための大前提であることを再認識しました。

# 【別記】大正9年9月30日の天候

第1回国勢調査記念録(第2巻)から地域における国勢調査のエピソードをみると、・・・折からの台風に伴う「暴風雨」の文言を含む記述が3件(東京都、神奈川県、静岡県)ありましたが、いずれも、調査実施上の困難を克服したとするものでした。また、大正9年9月30日の原敬日記(首相時代)において、・・・大雨による国勢調査への影響を案じています。

ちなみに、気象庁HPによれば、横浜の 1920 年9月30日の降水量は、262.5mm で、横浜気象台における9月の観測史上第2位 (1897/9~2020/9)、 通年の観測史上第3位 (1896/10~2020/11) となっています。また、同サイトによれば東京の 1920 年9月30日の降水量は193.7mm で、東京気象台における 9月の観測史上第4位 (1875/9~2020/9) となっています。

表 観測史上1~10位の降水量一横浜気象台、東京気象台

#### 横浜 (神奈川県)

観測史上1~10位の値(年間を通じての値)

要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	統計期間
日降水量	287.2	268.3	262.5	256	244	226	225.5	213.4	206.5	206	1896/10~
(mm)	(1958/9/26)	(1938/6/29)	(1920/9/30)	(1966/6/28)	(1994/8/21)	(1996/9/22)	(1991/9/19)	(1961/6/28)	(1993/8/27)	(1989/8/1)	2020/11

## 観測史上1~10位の値(9月としての値)

要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	統計期間
日降水量	287.2	262.5	226	225.5	185	178	174.3	164.5	164.4	160.5	$1897/9\sim$
(mm)	(1958/9/26)	(1920/9/30)	(1996/9/22)	(1991/9/19)	(1990/9/30)	(1907/9/18)	(1949/9/2)	(1914/9/14)	(1942/9/19)	(1982/9/12)	2020/9

#### 東京 (東京都)

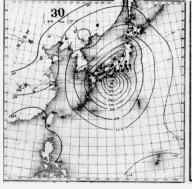
観測史上1~10位の値(9月としての値)

要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	統計期間
日降水量	371.9	259.5	220.5	193.7	175.9	167.5	164.8	157.5	156.5	151	$1875/9\sim$
(mm)	(1958/9/26)	(1996/9/22)	(1991/9/19)	(1920/9/30)	(1929/9/10)	(1982/9/12)	(1903/9/23)	(1948/9/16)	(2015/9/9)	(1958/9/17)	2020/9

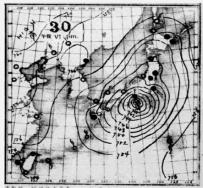
【出典】気象庁HP

図 大正9年9月30日の天気図【画像】中央気象台編「天気図 大正9年10月」(中央気象台, 1938) https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1015181/1 (国立国会図書館デジタルコレクション)

(正午) (午後6時)







# 【災害の概要】 大正9年9月29日~10月1日 関東地方・東北地方南部風水害

「9月30日房総半島をかすめて通った台風により、関東地方の大部分と福島県、宮城県が暴風に見舞われて各地に水害が発生。茨城県や神奈川県で被害が最も大きく茨城県で死者・行方不明91、家屋損壊616\*、浸水1万6376、神奈川県で死者・行方不明65、家屋損壊350、浸水1万5691とされる。東京でも本所・向島などで家屋浸水多数。」

(資料:国会資料編纂会「日本の自然 災害」の「大正時代の主要災害一覧」)

「気象水害年報」により計算すると 717 に。